

第九戒「偽証してはならない。」

1 第九戒は法廷で偽証することを戒めている。それはなぜ？

嘘をつくことの問題ですが、第九戒はまず法廷で被告を冤罪に追い込む誤った証言をすることを問題にしています。それは人の人生を狂わせ、その人と周囲の人たちを絶望のどん底に落とし、正義が行われるはずの社会秩序が信じられなくなる事態を生み出す大きな問題です。

2 これまで人間はこの罪を繰り返し起こし続けて来た。そして今も。

この罪をイスラエルの民はその歴史の中で繰り返し起こしています（列上 21 章。マタイ 26:59 以下）。よって、この第九戒の戒め自体にも、色々な説明が加えられていきました（レビ 19:15-16、申命 19:15 以下）。そして、悲しいかな、この事態は今の日本や世界にも当てはまることだと思わずにはおられません。国や世界を正しい姿に導く重責を担っている人たちの中にも、平気で嘘を語り、人の命がないがしろにする事態（戦争や靈感商法）を終息させるのとはほど遠い姿を取り続けている人たちを日々目にしているからです。

3 この罪に対して神様は厳しい。しかし救いの道も用意されていた！

先に挙げた旧約聖書の個所に見たように、神様がこの罪に対して告げられる裁きの言葉はとても厳しいです（申命 19:19 以下、列上 21:18 以下）。神が創造された大事な人の命を奪うことにつながるからであり、「主の目に悪とされるに身をゆだねた」（列上 21:25）からです。これらの罪は私たちと関係ないのでしょうか？ そうではありません。私たちの言葉はその語り様によって大きな罪を生み出すのです（ヤコブ 3 章）。イエス様は十字架の上で、「父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているのか知らないのです」（ルカ 23:34）と叫んで下さり、その罪が赦されるために私たちの身代わりとなって死んで下さいました。ですから、この罪の大きさ（神様の目に悪とされること）に気づき、悔い改めて（神様の方向に方向転換して）、ここに世界の救いの希望が確かにあることを思い、神様が私たちに託されたこの福音を伝えることに仕えていこうではありませんか。言葉に関しては、人を悪く言うことになっているなどと思ったら口をつぐみ、人の良い点を見つけ、それを良く言うことに努める。そう心掛けたいと思います。